

## 標準委員会 第26回基盤・応用技術専門部会議事録

1. 日 時 2014年11月28日（金） 10：00～11：40

2. 場 所 5東洋海事ビル A,B会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員） 岡本（部会長），吉田（幹事），石川，北島，塚，坂本，佐田，宿谷，田中，西田，沼田，日比，宮坂（13名）

（代理委員） 桑島正樹（東京電力(株)/伊藤委員），佐藤貢一（日本原子力発電株式会社/奥田委員），西田一隆（関西電力(株)/藤井委員），山本泰（(株)東芝/萩原委員）（4名）

（欠席委員） 上野，越塚，山口（3名）

（常時参加者） 笠原（1名）

（説明者） [シミュレーションの信頼性分科会]中田耕太郎（主査），中村 均（幹事），工藤義朗（常時参加者）（3名）

（オブザーバ） 田村明男（一般社団法人原子力安全推進協会）（1名）

（事務局） 中越，谷井（2名）

4. 配付資料

ATC26-0 議事次第

ATC26-1 前回議事録（案）

ATC26-2 人事について

ATC26-3 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」公衆審査結果報告

ATC26-4-1 「シミュレーションの信頼性確保のためのガイドライン：201X」基盤・応用技術専門部会の決議投票結果について

ATC26-4-2(1) 「シミュレーションの信頼性確保のためのガイドライン：201X」基盤・応用技術専門部会の決議投票対応

ATC26-4-2(2) 「シミュレーションの信頼性確保のためのガイドライン：201X」修正箇所

ATC26-5 分科会の活動状況について

5. 議事内容

事務局から開始時点で委員20名中，代理委員を含む17名の出席があり，委員会成立に必要な委員数（14名以上）を満足している旨，報告された。

(1) 前回議事録（案）の確認（ATC26-1）

前回議事録（案）について事前に配付されていた内容で承認された。

(2) 人事について（ATC26-2）

事務局からATC25-2に基づき，専門部会又は分科会の人事についてそれぞれ下記の提案があり，審議の結果，承認又は確認された。

1) 専門部会

①委員再任の承認

北島 庄一（電力中央研究所）

2) 分科会

①委員退任の確認

□放射線遮蔽分科会

佐藤理 (株) 三菱総合研究所

(3) 【報告】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」公衆審査結果 (ATC26-3)

事務局から ATC26-3 に基づき，“原子力施設の廃止措置の実施：20XX”の公衆審査の結果、意見がなかったことが報告された。

(4) 【報告・審議】「シミュレーションの信頼性確保のためのガイドライン:201X」基盤・応用技術専門部会の決議投票結果及びその対応について (ATC26-4-1, ATC26-4-2)

事務局から ATC26-4-1 に基づき，“シミュレーションの信頼性確保のためのガイドライン:201X”の基盤・応用技術専門部会決議投票の結果、可決されたことが報告された。

続いて、シミュレーションの信頼性分科会の中田主査、中村幹事、工藤常時参加者から ATC26-4-2(1)及び ATC26-4-2(2)に基づき、これまでのコメントへの対応案等について報告された。主な質疑・コメント等は下記のとおり。

Q) ガイド案 A. 6. 2 において品質記録、品質管理記録および品質管理文書が混在している。

A) 本体 3. 7 と整合がとれるように修正を行う。

Q) 実験の不確かさの要因のひとつとして過誤 (human error) を含めることは適切か。

A) 技量を含む“実験技術”と対比する表現として記載している。

C) 要因に人間の要素が入ってくることはおかしくはない。

Q) まえがきにて、すべて“東京電力福島第一発電所”と記載されているが、社名は最初に記載されていればよいのではないか。

A) 学会事故調報告書の用例に合わせる。

Q) A. 4a) 概念モデル開発が困難な場合とは何か。

A) 必要な物理的素過程が明らかになっていない場合などが相当する。そのような場合には所期の利用目的を見直す等の対応が必要になってくる。

C) 表現を修正する余地はあるが、わかる人には現案にて理解できる。

A) 委員名簿において (一財) の表現は適切か。

Q) 最近と同様に (一社) 等の表現を用いる。

C) 委員名簿には過去の参加者も記載されたし。

A) まえがきにおいて福島事故を強調しているにも関わらず、適用範囲にシビアアクシデントを書いてないのは不釣り合いである。

Q) 複合領域に含まれるとして記載していない。

C) 解説にシビアアクシデントが含まれることを記載してはどうか。シビアアクシデントの V&V ガイドを作成するという構想もあり、言及しておいたほうがよい。

審議の結果、(1) これまでのコメントへの対応における修正及び今回の専門部会でのコメントを反映した内容は編集上の修正であること並びに (2) (1) の対応結果を標準委員会で本報告することが決議された。

6. その他

(1) 岡本部会長から以下の発言があった。

①今回で部会長を退任するが、専門部会委員は退任しない。

- ②次の部会長が選任されるまで，萩原副部会長に部会長を代行してもらおう。
- (2) 次回第28回基盤・応用技術専門部会は，追ってメールで決定することが決まった。

以上